

# LGBTQ+の 健康レポート

誰にとっても心地よい医療を  
実装するために

日高 庸晴

当事者の声を医療と教育現場へつなげる——  
26年にわたる国内最大規模のLGBTQ+調査  
“ヒダカレポート”

医学書院

# 1人ひとりを大切にした あたり前のケアと教育を

国内でもセクシュアリティを取り巻く環境が徐々に変化している。しかし実際は、LGBTQ+当事者の方への偏見や戸惑いが存在し、世間の表向きの理解と現実のギャップは大きい。それは医療・教育現場も同様だ。そこで本書では、著者が長年にわたり行ってきた国内最大規模の調査データや当事者の語りをもとに、医療を必要としている当事者が戸惑うことなく受診できるための実装方法を解説した。調査データの一部を巻末資料として収載。

# LGBTQ+の 健康レポート

## 誰にとっても心地よい医療を 実装するために

### 日高 庸晴

宝塚大学看護学部教授

京都大学大学院医学研究科博士後期課程修了、博士号(社会健康医学)取得。カリフォルニア大学サンフランシスコ校医学部エイズ予防研究センター研究員などを経て現職。文部科学省・厚生労働省・法務省・警察庁や最高裁判所/司法研修所、地方公共団体の研修に講師として従事。2023年には内閣府「性的指向・ジェンダーアイデンティティ理解増進連絡会議」における初回の有識者ヒアリングの場で調査結果を報告した。

#### 目次

本書に関連する用語一覧

#### 第1部 当事者が置かれた現状と困難

- 第1章 当事者を取り巻く現状
- 第2章 国内外の人権課題
- 第3章 カミングアウトとメンタルヘルス
- 第4章 性暴力・DV被害と援助希求行動の難しさ

#### 第2部 医療と教育現場での実装

- 第5章 LGBTQ+当事者にとっての医療機関と受診控えの現状
- 第6章 専門職として医療従事者に求められること
- 第7章 学齢期におけるいじめ被害や自傷行為が人生に与える影響
- 第8章 LGBTQ+の学生のために教育機関ができること

巻末資料(2016・2019・2022年調査)

